

「試し酒」
今回は、長屋に住む人々の食生活についてご紹介します。江戸時代の初期、食事は一日に二食が普通でした。朝食が午前八時ごろ、夕食が午後二時ごろ。現代のような一日三度の食事をとるようになったのは十八世紀後半といわれています。一説によると、明暦の大火（一六五七年）で焼野原になった町の復興のために、雇われた職人たちに昼食を出した

「試し酒」

落語家 林家ひろ木 の 賃貸小噺



第38話 脱力ジョーク八連発

のがきつかけとも言われていますが、はっきりしません。ただ、三食といっても今と比べると実に質素です。『守貞謄稿』によれば、江戸ではご飯を炊くのは朝の一回で、朝は暖かいご飯に味噌汁、昼は冷や飯に野菜か魚のおかずを一品、夕飯は冷や飯の茶漬けに香の物だったといえます。冬の朝などは寒いので、前日の昼に炊いたご飯をもとに粥をつくって食べたそうです。

ただ江戸後期になると食生活が豊かになり、今でもおなじみ大食い大会や、大酒飲み合戦がはまりました。文化十四年に両国の料

江戸後期から大酒飲み合戦が流行

ある大家の主人。客の近江屋の旦那と酒のみ談義をしておりました。すると近江屋が「実は、お供で来ている下男の久造は大酒飲みで、一度に五升は飲むんですよ」と言います。それを聞いた主人は目を丸くして、とても信じられない様子。「では、賭けをしましょう。もしうちの久造

林家 ひろ木
1979年6月6日生まれ。広島県出身。2002年3月、早稲田大学人間科学部卒業。2002年5月、林家木久扇に入門。9月、鈴木演芸場で初高座を務める。2005年11月、二ツ目に昇進。

(毎月第3週掲載)

(おわり)

すると久造「いやあ、なんでもねえだよ。おらあ五升なんて酒え飲んだことがねえだから、心配でなんねえで、表の酒屋へ行って、試しに五升飲んできた」

補助金を利用した大規模修繕

家賃1万7000円アップで満室稼働中

▲築40年の外観



Before

物件の現状回復工事をいうユナイテッドワークス（大阪府大阪市）は、国土交通省が行った24年度「民間活用型住宅セーフティネット整備推進事業」の補助金を利用した大規模修繕を行った。一部覆い、プライバシーを確保させた。

業の助成金を活用した、し打ち、土台、大引の取フルリノベーションを行った。東大阪市内、近鉄奈良線「瓢箪山（ひょうたんやま）駅」徒歩12分の場所に位置する。築40年の物件は木造2階建ての12戸。そのうちの全室が空室であったこともあり大規模修繕を行った。改裝前家賃の3万2000円から4万9000円（共益費4000円）と1万7000円アップを實現した。工事の内容は、震災断や耐震改修を行う室内を一度スケルトン状態にし、基礎の補強工事としてコンクリートの増し打ち、土台、大引の取り換えを行った。そして耐力壁の増設として構造用合板で躯体補強し、梁の補強や柱の新設など、徹底的に補強したという。古い物件のイメージを取り去るために、新しい木製ルーバーで建物の一部覆い、プライバシーを確保させた。



After

補助しています」と話すのは赤松隆裕社長。

国に補助金を申請することで1000万円の修繕費用削減につながるといふ。物件は完成を待たずに申込みがあり、現在満室稼働中だといふ。

▲ルーバーを活用しサレシ